

家庭での学習について (がんばりノート)

時鐘

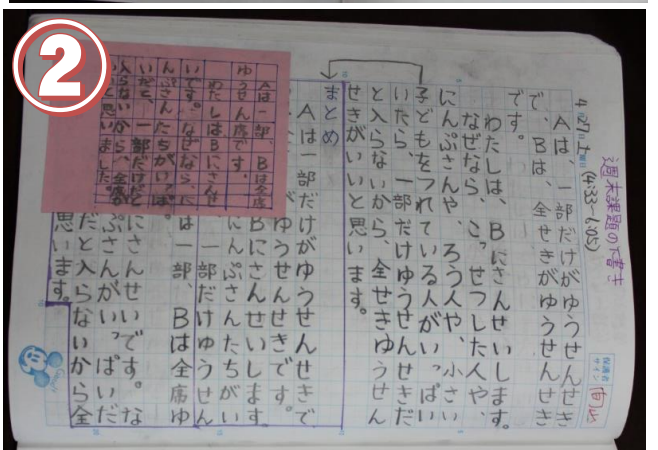
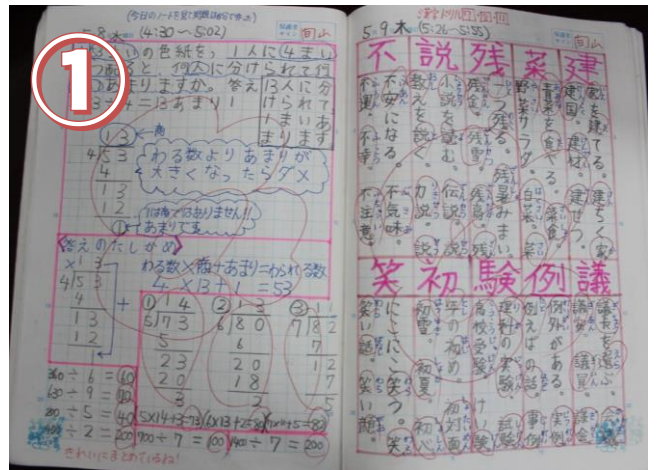
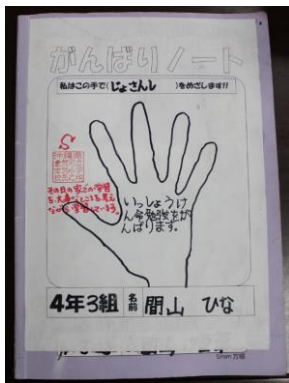
令和元年 7月9日
金武小 第12号
校長 森元幹生



本校歴代校長の伝統である「がんばりノート」の確認を524人分、年間を通して行っております。ノートの最後に評価を記しています。

合格は「B」、工夫されているノートは「A」、もっと頑張ってもらいたいのは「C」です。ときおり部活動前でしょうか、地面の上でノートを広げている子どもがいますが、要は「集中力」です。間違った漢字、または覚えていない漢字を何行も書き続ける：スペースが余ったので中・高学年でもかけ算九九を記入する…。なお、「S」評価は、とても素晴らしい学習の仕方、模範となるノートにつけています。どうぞ、限られた時間で集中して、一生懸命に考えて学習することができますように取り組みましょう。

今日の授業ノートから自分で考えた問題を作成し、かつ、重要事項をまとめています。②は、週末課題の下書きです。決められた条件にそって、効果的な表現となるよう工夫されています。③は、昨年度の6年生の頑張りノートですが、新聞記事から自分の意見を書



久しぶりの「S」評価。4年生ですが、①漢字の練習に工夫があります。濃い色のえんぴつを用い、丁寧に書き、書いて終わりではなく、一つずつチェックして○×をつけています。また、算数のページでは、

基礎的読解力に課題がみられる現代の子ども達(国立情報学研究所の新井紀子教授)です。新井教授は、2020年度から小学生のプログラミング教育が始まりますが、諸調査の結果より「読解力が無い子どもにプログラミングを教える意味が無い」と警鐘を鳴らしていらっしやいます。本校におきまして、今後も日常的な取組を実施していきます。



遊びに来ました、とアリロに挑戦。